

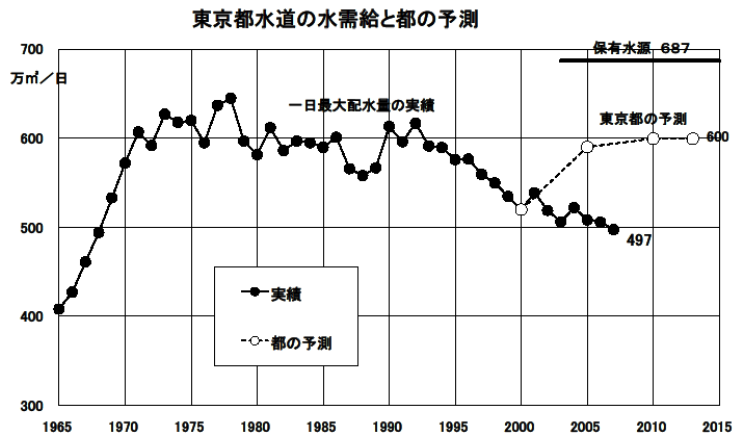
## ●ハツ場ダムとは？

利根川の洪水調節と都市用水の開発を目的として、群馬県長野原町の名勝吾妻渓谷に 1952 年に計画されたもののいまだ本体未着工。国交省が事業主体で茨城、群馬、埼玉、千葉、東京、栃木の各都県が参画。総貯水量約 1 億トン。現在は社会状況が変わり全く不要なダム。川原湯温泉を始めとする水没予定地の住民を、半世紀以上もダムで翻弄し、疲弊させた国の責任は重い。



## ●水余りの実態

水源開発の推進によって保有水源は増え続け、一方で、節水機器の普及等により、一日最大給水量は減り続けて、現在は約 190 万  $\text{m}^3/\text{日}$  という大量の水源が余っている。それなのに、都は過大な水需要予測を改めようとしなない。多摩地域では、ハツ場ダムができると、現在水道水として飲んでいる美味しい地下水が、ダムの水に切り替わってしまう。



## ●日本一高額なダム

ハツ場ダムの総事業費はダム建設の他に周辺整備等の関連事業も含めると、約 5,850 億円にもなると予想される。そのうち東京都民の負担は 850 億円、利息も加えると約 1,270 億円に上る。

\*\*\*\*\*

裁判に関するお問い合わせは、ハツ場ダムをストップさせる東京の会・深澤(T/F042-341-7524)へ。入会(年会費 1,000 円)、カンパによるご支援も、どうぞよろしくお願いします。

郵便振替:00120-8-629740 名義:ハツ場ダムをストップさせる東京の会

当会は、6都県の裁判をまとめる「ハツ場ダムをストップさせる市民連絡会」

(HP:<http://www.yamba.jpn.org/>)

ハツ場ダム見直しと現地の生活再建を掲げる「ハツ場あしたの会」(HP:<http://www.yamba-net.org/>)と連携して活動しています。